

道徳科学習指導案

令和4年2月8日1年A組
 授業者 文京区立第九中学校
 教諭 戸上 理子

- 1 主題名 「よりよく生きる」
- 2 内容項目 D よりよく生きる喜び
- 3 教材名・出典 「撮れなかった一枚の写真」(出典：中学道徳 きみがいちばんひかるとき光村図書出版)
- 4 ねらい 吉田ルイ子さんの生き方を通して、自分自身の弱さや醜さを克服しながら気高く生きようとする道徳的実践意欲や態度を育てる。
- 5 指導過程



	学習活動 ICT活用(★)	主な発問(○)と予想される生徒の反応(・)	指導上の留意点(・)
導入	1 フォト・ジャーナリストの仕事を知る(★)。 2 吉田ルイ子さんについて知る(★)。	○フォト・ジャーナリストと聞いて、どんな職業をイメージしますか。 ・戦場で写真を撮る職業 ・写真を通して、世界の出来事を発信する職業	・フォト・ジャーナリストという職業について理解させる。 ・吉田ルイ子さんの経歴や写真を撮る上で大切にしている考え方などを紹介する。
「よりよく生きる」とは？			
展開	3 教材「撮れなかった一枚の写真」を読み、考える。 4 隣同士でペア活動を行、発表する。 5 ワークシートに書き、発表する。 6 自分の考えをタブレットに記入する(★)。 7 小集団で話し合い、発表する(★)。	○教材の中で、印象に残った場面はどこですか。 ペア活動 ・吉田さんが写真を撮ろうとしたとき、母親が顔を背けた場面。 ・撮れなかった一枚の写真について、吉田さんが悩んでいる場面。 ・吉田さんが写真を撮らなかったことに納得していた場面。 ○吉田さんは、どうして写真を撮ることができなかったのだろう。 個人の活動 ・母子がかわいそうに見えたから。 ・母子の必死な姿を見て、シャッターを押せなかったから。 ・目の前の人嫌がっているのに、シャッターを押す(押そうとする)自分に嫌気がさしたから ・自分の心に背いてまで写真は撮れない。 ◎「プロのフォト・ジャーナリストである前に、私は一人の普通の人間でありたい。」とはどういうことか。(中心発問) 個人→小集団 ・人として正しいことをしたい ・目の前の人たちの気持ちを大切にしたい。 ・人として何が大切であるかを考えて行動すること ・「何」：善悪の判断をし、正しく生きること。 ・自分の良心に従って恥じない生き方をしたい。	・生徒の発言をもとに、手際よくあらすじを整理する。 ・生徒が教材内容をきちんと整理した上で発問する。 ・本時で追求する課題を、生徒の意見から設定する。 ・中心発問に向けてのつながりの発問であるため、ここでは深入りをしない。 ・単に母子がかわいそうということだけでなく、人間(母子)の尊厳を傷つける行為であることを気付かせる。 ・吉田さんの写真に対する考え方に照らして、考えさせる。 ・生徒の発言に対して、問い返しをして考えを深めていく。
終末	8 本時を振り返る 9 ワークシートに書き、発表する。	○本時の授業を通して、考えたこと、学んだことを整理しよう ペア活動 ・人としてどうあるべきか(善悪)を判断し、考えて、皆が幸せになる生き方をすることが大切	・道徳的価値の理解を基に、人間としての生き方についての自覚を深めさせる。

6 評価

- ・自分自身の弱さや醜さを克服しながら気高く生きようとするについて、多面的・多角的に考えることができたか。
- ・よりよく生きることやそれがもたらす喜びについて自分自身の問題として自らの生き方に生かそうと考えを深めることができたか。

■主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

ありのままの人間は、決して完全なものではなく、誰の心の中にも弱さや醜さがあり、それと同時に、人間はその弱さ

や醜さを克服したいと願う心も持っている。つまり、人間は、総体として弱さはあるが、それを乗り越え、次に向かっていくところにすばらしさがある。時として様々な誘惑に負け、やすきに流れることもあるが、誰もがもつ良心によって悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、呵責に耐えきれない自分の存在を深く意識するようになる。こうした苦しみに打ち勝って、恥とは何か、誇りとは何かを知り、自分に誇りをもつことができたとき、人間として生きる喜びに気付くことができる。人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、気高い存在になり得るのである。

「気高く生きようとする心」は、自己の良心に従って人間性に外れずに生きようとする心であり、その気高さは、自己の弱さや醜さに向き合うことがなければ、気付くことのできない自己の強さである。つまり、人間の強さと気高さは、弱さと醜さと決して離れているわけではなく表裏一体の関係であるといえる。

本授業を通して、人間として「よりよく生きること」について考え、自分自身の弱さや醜さを克服しながら気高く生きようとする道徳的実践意欲や態度を育てたい、と考え本主題を設定した。

■指導の工夫

(1) 教材提示の工夫

範読後は、教材の流れが順を追って理解できるよう時系列にそって場面絵を貼付したものを用意することで、生徒の教材理解を助ける。また、SDGs17の目標のうち、本教材に関連する項目16(平和と公正をすべての人に)を提示する。

(2) 補助発問および中心発問の工夫

教材の中で印象に残った場面を聞き、本時で追求する課題を生徒の意見から設定することで、生徒がより関心をもって学習に取り組めるようにする。中心発問と問うた後に、必要に応じて問い返しをすることでねらいとする道徳的価値に迫る。

(3) 学習活動の工夫

教材の中で印象に残った場面を話し合う時には、ペア活動を取り入れる。小集団での話し合いの前に、ペア活動を取り入れることで、小集団での話し合いがスムーズに充実したものになるようにする。中心発問ではタブレット端末を用いて自分の意見を入力させる。入力された意見は、全体もしくは小集団で話し合いの時に参照され、生徒が自分自身の考えを深めることを目的として活用する。

■板書計画

